30pmF-726

漢方エキス製剤の服用法による成分変化に関する研究（第 3 報）

○大熊　玲子[1], 宮本　侑紀[1], 滝川　創史郎[1], 細渕　裕美[1], 福田　枝里子[1],
馬場　正樹[1], 赤瀬　朋秀[2], 岡田　嘉仁[1]（[1]明治薬大, [2]日本経済大院経営学）

【目的】漢方エキス製剤は通常、湯などに溶かして服用することが推奨されているが、その方法は確立していない。特に、高齢者における経管投与では、漢方エキス製剤を溶解する必要があり、昨今の超高齢化によりますます溶解する手法の確立が医療現場で求められている。一方、漢方エキス製剤に水を加えて電子レンジで温めた場合に溶解性の向上や簡便性という点からもこの服用方法が広く利用されてきている。そこで、電子レンジのマイクロ波が化学反応に影響を及ぼすとの報告があることも踏まえて電子レンジの加温による成分変化の有無を検証することにした。前回までは、アルツハイマー型認知症に効果があると注目されている抑肝散の分析を行い、「蒼朮」「川芎」「当帰」由来の成分変化を報告した。[1)]
また「白朮」が配剤されている抑肝散を用いても成分変化が確認された。[2)]
今回は臨床現場で使用頻度の高い漢方エキス製剤を用いて分析を行った。
【方法】使用頻度の高い漢方エキス製剤を臨床で実際に用いられている、水や湯に溶かして服用する方法等で調製し、経時的に家庭用電子レンジで温めたものを遠心分離し、得られた上澄を HPLC で分析した。
【結果】臨床現場で使用頻度の高い漢方エキス製剤である葛根湯、十全大補湯、補中益気湯、大建中湯、六君子湯に着目して HPLC で分析した。その結果、これら 5 つの漢方エキス製剤の内、葛根湯、六君子湯、補中益気湯の 3 つの漢方エキス製剤において、電子レンジで温めたものに一部成分の著しい変化が確認された。現在、成分変化が確認された成分の由来生薬の同定と電子レンジのマイクロ波による成分変化の有無などについての詳細な分析を進めている。

1) 細渕ら　日本薬学会第 132 年会（札幌）　2) 宮本ら　第 29 回和漢医薬学会（東京）